

私たちは

北朝鮮の「人工衛星」打ち上げを

利用した軍拡に反対します！

○八月三十一日、北朝鮮（朝鮮民主主義共和国）が、「ミサイル」を発射したと大々的に報道されましたが、九月十二日には、米國務省も「人工衛星打ち上げ失敗」と確認。しかし、日本政府だけが、未だに「ミサイル発射」と連呼。

民間飛行機の飛行にも危険を与えかねないこの行為は、批判されて当然ですが、日本政府の反応は異常で、この事件を最大限に利用しようとしています。

○人工衛星発射技術が、ミサイル開発と連動していることは事実ですが、日本も人工衛星を発射しています。それに、北朝鮮にしてみれば、日本には、アジア全域への出撃基地としての多くの米軍基地や、最新装備の自衛隊もあり、この三月には、浜松基地には、AWACS（空中早期警戒管制機）も配備され、北朝鮮に対する日米の脅威が、急速に強化された結果、北朝鮮も警戒を強めているのではないのでしょうか。

○この事件以来、日本国内に軍事拡大の動きが強まりました。独自の偵察衛星の保有、弾道ミサイルを迎撃ミサイルで撃墜するというTMD（戦域ミサイル防衛）構想への共同技術研究への参加、そして米軍の戦争に協力させられる新ガイドライン関連の「周辺事態措置法案」の制定の動きなど…。

○皆さん、安全保障とは、このような軍事的な対応だけではなく、外交なども含め、どうすれば国民の平和と安全を守ることが出来るかという観点から、総合的に考えるべきものです。

大体、数兆円もかかるTMDにしても、百パーセントのミサイル迎撃は出来ないといえます。それならば、北朝鮮の「脅威」を叫ぶのではなく、こちらの「脅威」を無くしていくために尽力すべきでしょう。

○日本国憲法の精神に則り、軍事基地を無くし、他国に「脅威」を与えない平和的な日本を創り出すこと、これこそが真の平和への道です。軍事強化が更なる軍事強化を招くという「愚」の悪循環は、まっぴらです。

○私たちは、日本政府に、北朝鮮と協議することと、北朝鮮食料援助凍結を解いて、食糧難に苦しむ人々に援助することを求めます。

軍事的対応ではなく、平和的な対応を！ 平和なアジアを創り出していくためには、これしか方法はありません。

一九九八年十月十一日（日）第三八〇回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一〜十五